

在宅・施設・病院それぞれの 多職種によるACPの在り方

在宅での関わりを振り返って
訪問看護ステーションフレンズ

保坂

本日のおはなし

- 1 (心づもり)
- 2 当ステーション内での取り組み
- 3 事例を通して
- 4 今後の事

(心づもり)

- 延命治療の希望の是非(ADP)、何処で最後を迎えたいか、誰にお世話してもらいたいか、といった

エンド・オブ・ライフ期での望むケア・暮らし方を

医療者や家族などの大切な人と話し合うコミュニケーションプロセス。

認知症を生きる人も、そうでなくても、大事な事

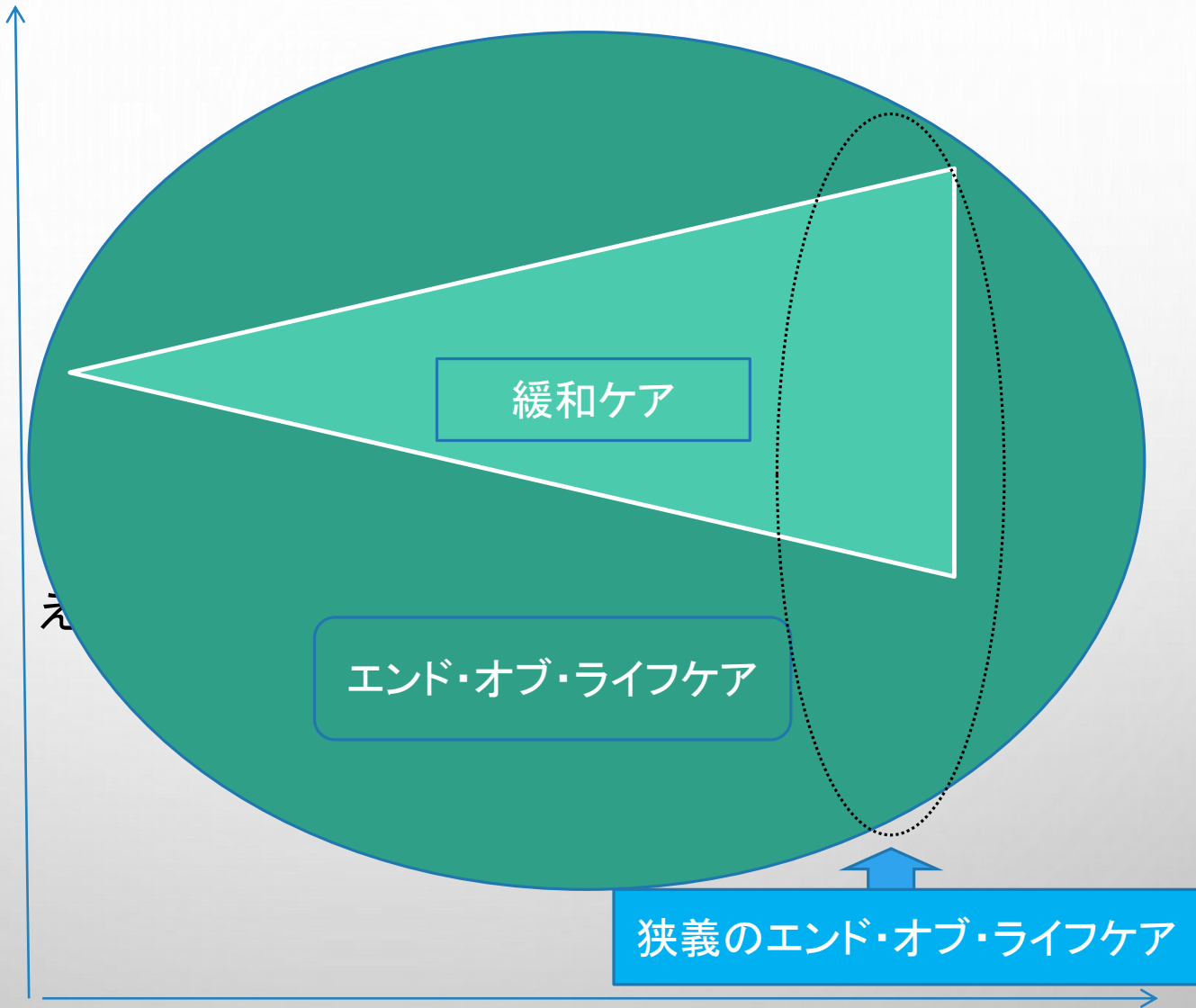
『もしも・・・』をあらかじめ話し合おう

エンド・オブ・ライフケア

- ライフが意味する「時間的連続性」と「ケアの持続」
- 時間軸での物語りそのもの。その人を中心とした関係性の中で育まれる。コミュニティの中で
の他者とのか関わりながら様々な意味付けしていくプロセス

症状の変化が激しく
苦痛を伴う状態

比較的症状が穏やかな癌
を含む慢性疾患、
虚弱高齢者



年単位

月単位

週単位

数日

死

人生の軌跡を描く事

- 生まれ、歳を重ねる先に、誰にでも訪れる死を遠くに意識しながら生活の延長を描き続けていく。
- その人の様々の場面や立場で向き合う。
- 終末だけがエンド・オブ・ライフケアではない。
- 年齢・疾患に・健康状態を問わず生きる事に向き合い、看護を必要としている人全てに提供されるケア。

より健康、悪くならない為の維持管理



住み慣れた地域で病と共に暮らし続けられるために

人生の軌跡
健康の維持管理

在宅医療・介護
のネットワーク

急性期医療と地域との連携
退院支援・調整

介護者も支える地域
ネットワークの活用

人々が老いや死にどう向き合うかを大切な人との関係の中で出会う専門職との関わりの中で日常の生活のなかで感じとって行く事が重要

看取りに
向けたケア
医療と連携

当ステーションの取り組み

- ・ チーム参看日の開催

コロナ禍でカンファレンスもメールや電話

スタッフから看護について話がしたい！の要望♥

この時期だから、語りあいたい、しゃべりたい！

日頃の疑問、目の前の「人」の思いを知りみんなでも共有したい！

ピザを食べながら！



話し合った内容は！

- 看護の連携って！・・・「患者や家族のどうしたいかに寄り添ってその人の為にチームで関わることが大切だと思う。」
- 緩和ケアって！・・・「痛いから痛くなくするとかが緩和みたいだけど違うと思う。癌だろうとなかろうとその人が、人生の終わりが見えたら、どう生ききるかを一緒に考えてみる事が大切だと思う。」
- など、食べながらワイワイ！でも、言葉に出して話す事が大切だと痛感！

- ACPって・・・「本人や家族がどうしたいかをしっかり聞くなり、
- その話し合いに参加できたらして、目の前の人
- の思いにサポートしていけばいいんでないかな～」
- 「でも、なかなか聞けないよね～。どうしたいって聞くと
- 看護師さんどうすればいい？って聞かれたり・・・笑」
- 「そこだよね～、でもこれって何回もそんな場面に立ち会
- っているんな家族や、目の前の利用者さんとしっかり
- 関係性を構築して行くしかないよね」
- 「まだまだ、自分ではできないけど、そんな風に聞ける自分
- になりたいです」BY新卒さん

参看日の効果

- 話し合いの中で
- 誰もがその人の思いを知り、寄り添える、支える事ができる自分になる！
- その為には思いを聞くことができる自分、考えれる自分
相談できる自分になることが必要だ！
- 直ぐにはできないけど、日々頑張ってみたい！ やってみる！

そんな言葉がでてきました！

AYA世代の事例

- H・Yさん 38歳
- 病名 十二指腸癌末期 肝転移
- 家族構成 夫、子供3人
- 子供＝小学3年生
- 小学1年生
- 4歳幼稚園

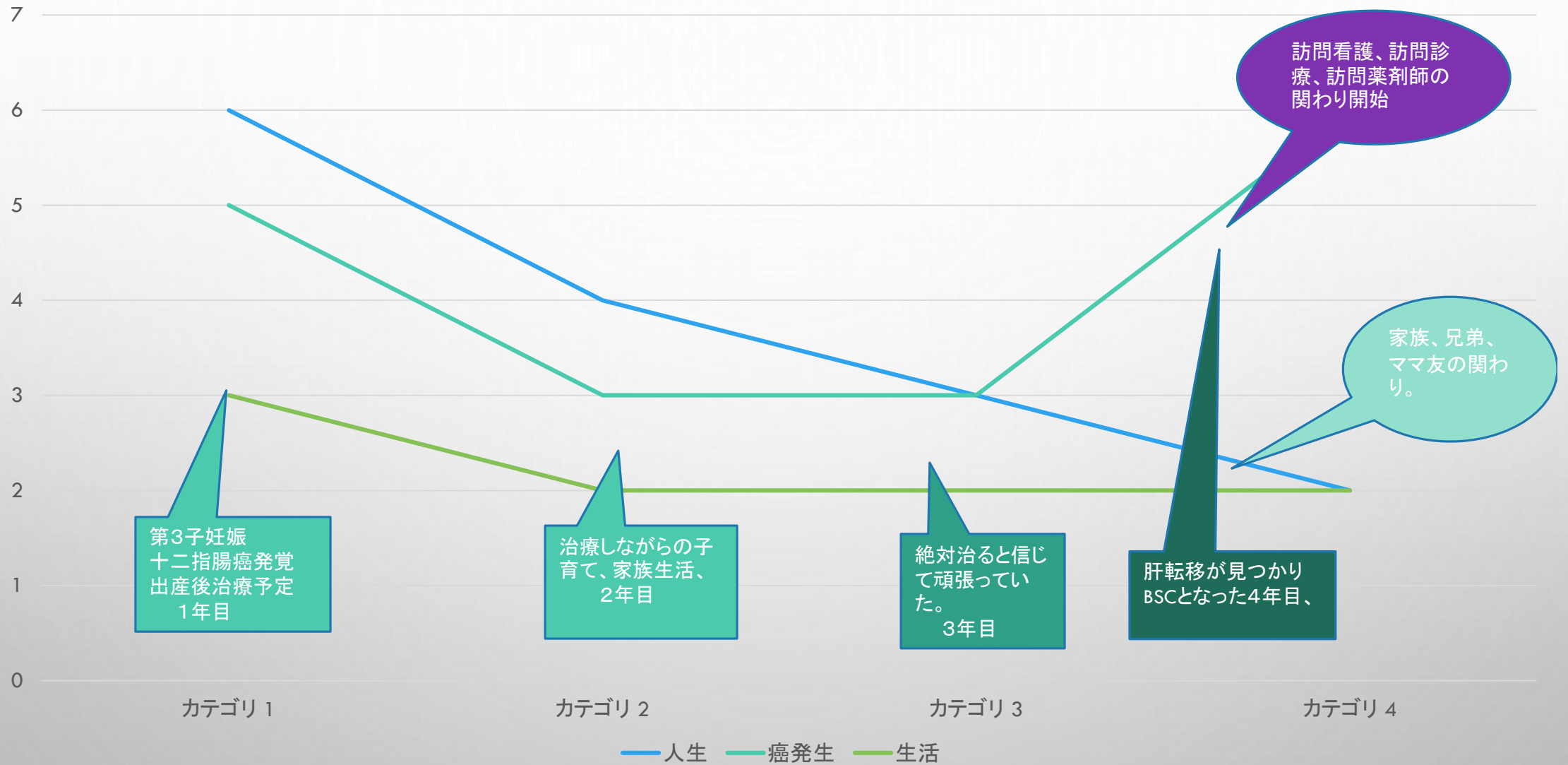
経過

- 4年前、妊娠と同時くらいに癌が見つかり出産後から抗がん剤治療を行う。4歳の子供の成長と一緒に病気との闘いが始まった。本人は絶対治す！子供達の成長と家族の生活を楽しむこと、

辛い治療も頑張ってきた。ご主人も協力的で、本人の為に出張などの仕事も減らしたり、家族の時間を大切にしてきた。もちろん絶対治る！と心を強くして。

子供たちのママ友さん達の協力もあり、前向きに治療に向かっていた。

Y.Hさんの時継列



- 3男が4歳になったころ、
- 彼女の身体は治療の効果もなく、肝転移となった。
- 腹水も溜まり始め、癌性疼痛も出てきた。
- 入院しての緩和が始まった。本人もご主人も時間がないことは解っていた。ご主人は変わっていく母親の姿を子供に見せることに戸惑っていて、自宅に連れて帰ることに抵抗が見られた。
- しかし、本人は**子供の側にいたい！、家族の時間が欲しい！**
- 自分の最期の姿、これは子供に見せるのは、と躊躇い。
- ご主人は子供に見せれない。と。



- この時点でのお二人の思いは自宅に帰るかどうか悩んでいた。

悩んでいる二人

手伝うよ！
子供達は任
せて！

ご両親
兄妹
ママ友

支える病棟
看護師
退院支援看
護師

子供達もまっている
から帰って見たら

自宅へ

- ・ 二人は、決心して自宅へ帰ることに！ただし、最後は病院で！
38歳介護保険は使えず、ご主人が仕事柄ベットや点滴棒を用意
在宅医、訪問看護ステーションが集まりカンファレンス

* 自宅で何したい？ = 子供と楽しく過ごしたい

子供と学校の話をしたい。

本人の子供と一緒に過ごす事が何よりの楽しみ、子供に会いたいのお家へ帰るの意思に！

- 退院！ カンファレンス終了後直ぐに！

ママのベットに子供達3人が一緒に座りとてもいい笑顔！

写真を提示できないのが残念。

4歳君＝ママが来た。今日は隣に寝てもいい？

1年生＝とりあえず、オレ宿題する！（テレテレ）

3年生＝（表情が硬い、何かを感じているような表情）

帰って来てよかった！の一言。我慢しているかな？

本人＝会えて嬉しい！やはりうちがいい！

ご主人＝不安はありますが、子供がはしゃいでいるのをみたら連れてきて良かった。

経過

- ・ 病状としては悪化していく

「子供を怒鳴ってしまった～。だめだね～。イライラしてるんだよね」



病状の悪化で心が乱れているのだろう。「怒る事も母として大切な仕事、でも気持ちが不安定なら、少しボーっとできないか先生に相談するかい？」とスタッフ。ご主人にも現状で大丈夫かの確認などをしていくと「まだ、大丈夫！」と。

母親から「私も怒られるんだよ～(笑)でも孫たちが明るく笑っているから、助かる。」と。

- その中で土曜日と日曜日は家族の時間を得るために訪問回数を減らしていた。痛みに関しては麻薬ポンプの使い方を指導。若いので直ぐにできるようになる!
- { 家族の時間を大切にしていけるようにと、ママ友家族とのクリスマス会を開催された。子供達も大喜びだったとの事。その日の夕方訪問すると、子供たちは大はしゃぎ、本人もご主人も最高の笑顔。} 訪問する私たちもうれしかった!
- その後から更に状態が悪化してきた。今後について二人からははっきりとした意思表示がなかった。

ご主人がベットの側で休むようになった。ほぼ、寝たり起きたりの状態になり、そろそろ自宅が厳しい状況で主治医より「病院に戻るなら今ですよ。」の話があった。

二人の答え

「このまま、最後まで家にいます！」

この結論に至った経緯

- ご主人から、
子供達、上二人には話した。ママが死んじゃう事を。
二人は泣いていたが、ママといたいと。
ご両親もできれば傍にいたいと。自分も傍にいたいです。
ママ友さん達が毎日励ましに来てくれる。自分も支えられている。



**本人・家族が真ん中でご両親や地域のチカラ・ママ友さん
その中で本人の思いに寄り添えた結論**

終わりの時

声をかけても返事をしなくなり、呼吸もゆっくりと止まりそう。手も冷たくなり、足の冷たくなった。

家族みんなでママを囲んでの見送り。私は子供たちが心配で駆けつけていました。

スタッフも同じ思いがありました。

長男君＝泣きじゃくり、疲れて眠ってしまいました。「僕が悪いんだ、言うこときかなかったから」と

次男君＝「僕、騒いで宿題やらないから、ママ死んじゃった」長男と一緒に泣きながら眠っていた。

3男君＝「ママ、寝てるの。静かにしてね。明日朝にちゃんと起きるから。」と言って、ママのベットに。

ご主人＝「褒めてあげたい、辛い治療も文句言わず。だけど死亡診断書は出したくない！」と

お母さん＝「自分より先に逝ってしまうなんて。辛すぎる。」

AYA世代、本人・家族の思いに寄り添い支えたケース

- ママ友さんが沢山駆けつけてくれました。
- 泣きながら、思い出の話をしながらこれからの子供達に対する支える方法を相談してました。心強い！

そして、旅立ちの身支度。

洋服はお母さんが、イヤリング、ネックレスはご主人が選びました。メイク・ネイルはスタッフとママ友さん達で。

3男君は、傍をウロウロしては、「ママ起きちゃうよ！」と。

以前、彼女が話していた言葉「みんなに感謝している。みんなに伝えたいんだ！」と。

この言葉をご家族、ママ友に伝えました。

終わり(課題)

- 目の前の「人」—どうしたい？教えて？一緒に考える仲間に！
- 言えない・・・
- 聞けない・・・
- 考えられない・・・

- 三つのない！何故「ない」なのか？
- できればその点について職場内でディスカッションして欲しい。
- できる方はファシリに。

これから

- この研修に参加して

今の仕事、職場でどんな自分になりたいのでしょうか？

今、目の前の「人」とこれからについて一緒に考えることができる自分になる！

こんな自分の像を描くことができれば♥

おわり